

「ありがとう」

埼玉県
川越市立古谷小学校 五年

関根 茉莉香

「まりかちゃんを怒っちゃだめ。ままは悪い子。まりかちゃんにごめんさいして。」

私が怒られていると、いつも弟がとんできて私の事をかばってくれます。「えるちゃんにはかなわないね。まりか、きちんとお片付けしなさいよ。」と、今までおにみたくに怒っていた母も、ちよつとあきれた顔をして、行つてしまします。

私は6年間ひとりっ子でした。お友達にはみんな兄妹がいるのに、どうして私にはいないんだろうと思つて、サンタクロースをお願いしたり、神様をお願いしたりしました。だから、母から「まりちゃん、もうすぐお姉ちゃんになるのよ。」と言われた時はとてもうれしくて、まず、母と父と神様とサンタクロースに「ありがとう」と言いました。でも、そのころは、赤ちゃんが十ヶ月もお腹の中ですこすなんて知らなくて、どうして早く赤ちゃんが産まれてこないのか、本当は父と母がうそをついているのではないかと思つていました。

四年前の四月十四日のまだ太陽もでていない朝早く、母が、水したので、あわてて、父と母と私は3人で病院に行きました。苦しそうな母に手紙をわたすと、母は私に「まりちゃんありがとう。」と何回も言ってくれました。それから何時間も経つて、やっと弟が産まれ、かんごしさんに許可をもらつて母のそばに行くと、小さなかわいい赤ちゃんが横にねむっています。父は母に何回も「ありがとう。」と

いつていたので、私も父のまねをして、母に「ありがとう。」をたくさん言いました。後で父に、なぜ、「ありがとう。」を言ったのか聞いてみると、お腹の中で長い間赤ちゃんを育てるといふ事の大変さ、大きなお腹で家事をすることの大変さ、歩くだけでも大変な事、それから何よりも、赤ちゃんを産むのがどんなに痛くて苦しい事なのかを話してくれました。次の日、さうそく母に父から聞いた話をして、もう一度「ありがとう。」と言うと、母は少しだけ泣いて、「ありがとう。」と言つてぎゅつとだつこしてくれました。その時の事を思い出すと、少しむねがきゅつとします。

母と弟が退院した後はお仕事で遅い父にかわつて、私が母と二緒に弟をおふろに入れたり、ミルクをあげたり、おむつをかえたりしました。私にとっては全部楽しい事だったので、今でも父と母は、私に「まりちゃんがいてくれたから、とても助かったよ。本当にありがとう。」と言ってくれるので、それを聞くたびに、とてもうれしくなります。

赤ちゃんだった弟も、今は四才です。ケンカもするし、にくらしい事もあるけど、今でも弟をおふろに入れるのは私の大事な役目で、ねる時もいつも一緒です。こんなにかわいい弟を産んでくれた母、私達のために一生けん命お仕事をしている父、私の家に産まれてくれた弟に、沢山「ありがとう。」と言いたいです。